

支援のネットワークの例

幼・小・中学校・義務教育学校
・高等学校・特別支援学校
スクールカウンセラー
スクールソーシャルワーカー



各市役所・町村
役場・教育委員会
適応指導教室

教育事務所
特別支援教育

保健福祉事務所

児童相談所

**家庭
(子ども)
(保護者)**

警察

医療関係

企業

家庭教育支援
チーム

国立磐梯青少年
交流の家

フリースクール

会津自然の家

ひとりで悩まず、
相談機関を活用しましょう

学校は、スクールソーシャルワーカーと
協力しながら、その子にあった相談機関
と連携します。



「だるま」や「起き上がり小法師」は、転んでもすぐ立ち上がるところから、粘り強さと健康のシンボルとして縁起がいいとされています。

⑤

○ 最初の相談先

① 学校

担任、養護教諭、学年主任、生徒指導担当
部活動顧問等 話しやすい先生



② 外部の専門家

- スクールカウンセラー
(心理の専門家)
 - ・ 中学校に配置 (中学生が利用する場合) 週1回程度相談日を設けている。
 - ・ 小学生 (保護者含) が利用する場合 通学している小学校に相談する。
- スクールソーシャルワーカー
(福祉の専門家)
 - ・ 学校に相談する。



○ 緊急時の相談先

・ ふくしま24時間子どもSOS
(0120-916-024)



・ LINE 相談
(こころをつなぐ@福島)

- ① スマートフォン等で右のQRコードを読み取る。
- ② LINEアプリのID検索でID【@228dnon】を半角入力し検索する。



LINE相談
QRコード

のどちらかで登録。

※ さらに詳しい相談先は、会津
教育事務所ホームページに掲載
してあります。

会津教育事務所
ホームページ
QRコード



⑥

子どものSOSを より早く気づくために

～子どもが学校に行きたくないと言ったら～
地域家庭教育推進会津ブロック会議委員からの提言

令和6年6月改訂



ひとりで悩まないで！！

さらに詳しい内容は、会津教育事務所
ホームページに掲載されております。下
のQRコードを読み取りアクセスしてく
ださい。

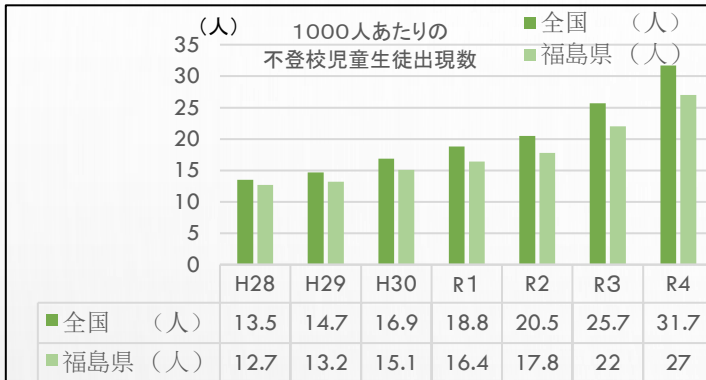


会津教育事務所
ホームページ
QRコード

会津教育事務所

※ 三つ折りにしてご使用ください。 ①

不登校増加傾向について



- 上のグラフのように不登校出現率は、全国・福島県ともに増加傾向にあります。会津地区も例外ではありません。
- 不登校は、どの子にも起こりうる可能性があります。



そこで、家庭教育の視点から不登校の未然防止とその対応についてできることはないかと考えました。

それは

(1) ふだんの親子関係について

(2) 子どもが学校に行きたくないと言った時の対応について

です。さらに詳しい説明やポイント解説は、会津教育事務所ホームページに掲載してあります。ぜひご覧ください。

(1) ふだんの親子関係について

① 子どもの人権を尊重する

- ・ 子どもには「安心して」「自信をもって」「自由に」生きる権利があります。子どもは一人の尊厳（そんげん）をもった大切な存在であることを再度確認します。
- ・ 決める（選ぶ）のは、子ども自身です。親と一緒に考え、サポートします。

② 親子の会話を大切にする

- ・ 子どもは、聞いてもらえることで安心感をもち、何か困ったらまた話そうという気持ちになります。「受けとめてもらえた」と感じることで、相手に対する信頼感が育ちます。会話を通して親子の信頼関係が深まっていきます。

③ 家庭を安心できる場所にする

- ・ 家庭が安心できる、居心地のよい場所にすることが大切です。子どもが困った時の一番の拠り所になります。そのために家族で共通の楽しみを見つけ、家族で過ごす時間をつくります。
例 ・ 夕食後のひとときを家族で過ごす。
・ 家族共通の楽しみを見つける。
・ 親子で一緒に料理を作る。 等

④ 規則正しい生活リズムを身に付ける

- ・ 子どもの生活習慣の乱れは、学習意欲、気力、体力の低下の大きな要因の一つです。子どもが健やかに成長していくためには、規則正しい生活リズムを身に付けることが大切です。スマホやゲームの長時間利用には注意が必要です。

⑤ ほめることで自己肯定感を高める

- ・ 「どのようにほめたらいいかわからない」「悪いところに目がいってしまい、つい怒ってしまう」ということはありませんか。「手伝ってくれてありがとう」「残さず食べてくれてうれしい」など、具体的にほめたり、感謝の気持ちを伝えたりします。そんなちょっとしたことで子どもは気持ちが前向きになり、自己肯定感を高めることにつながります。

⑥ 地域とのかかわりを大切にする

- ・ 子ども会や自治会（町内会）の行事や活動等、学校や家庭では味わえない豊かな体験の機会が多くあります。親子で楽しく参加してみます。
- ・ 幅広い年代の人との出会いや学校以外の人と触れ合う機会があり、ほめられる、認められる経験の場になります。

(2) 子どもが学校に行きたくないと言ったら

① 子どもの話をじっくり聴く（傾聴）

- ・ まずは落ち着いて、子どもの話をじっくり聴きます。子どもの気持ちを決して否定せず、すべて受け止める姿勢で聴きます。（無理に学校へ連れて行くことは、逆効果になる場合があります。）

② 積極的に相談する

- ・ 誰かに相談する勇気も必要です。悩みはひとりで抱え込まず積極的に相談する。話をするだけで、気持ちが楽になります。
- ・ 様々な要因が絡みあって不登校になる可能性があります。何が原因なのかを突き止めるよりも、これからどう支援すればよいか重要です。まずは、学校と連携を図りながら、どのような支援ができるか考えていくようにします。
- ・ 様々な方々と相談していきます。
 - 身近な人（家族、信頼できる友人等）
 - 学校
 - スクールカウンセラー
 - スクールソーシャルワーカー（関係機関と連携）
 - その子に合った関係機関の方
 - 家庭教育支援チーム

③ 子どもの居場所を見つける

- ・ 学校での生活という大きな習慣がなくなるため、夜更かしやひきこもりといった生活が加速するかもしれません。日中、子どもが安心して学ぶことができる居場所づくりを進めます。
例 ・ 学校（特別な教室、保健室）
・ 適応指導教室 ・ 地域の居場所 等

④ 日常生活リズムを取り戻す

- ・ 子どもがスマホやゲームに多くの時間を費やしている場合、家での過ごし方を子どもと一緒に決め、規則正しい生活を取り戻すようにします。
例 ・ 早寝、早起き、朝ごはん
・ 元気に体を動かす
・ 家の中での役割を決める 等

⑤ 焦らず待つ

- ・ 子どもの精神が不安定になったり、無気力になったりする場合があります。「学校へ行きたい」という思いと「このままの方が楽」という思いの葛藤の中にいるからです。焦らずに見守り、子どもの心のエネルギーが高まるのを待つようにします。

○ 不登校のお子さんが歩むプロセス（web上で紹介）

